

2018年4月19日
三井化学株式会社

三井化学は“2040 マラリア撲滅活動”を支援します。

英国連邦首脳会議で世界農薬大手 5 社が団結、共同声明発表

本日、ロンドンにて開催された英国連邦首脳会議において、世界をリードする農業化学品企業である、BASF、BAYER、三井化学、住友化学、シンジェンタの 5 社は、2040 年までにマラリアを撲滅するための革新的な製品の研究、開発、供給を支援する共同声明を発表しました。



BASF、バイエル、三井化学、住友化学、シンジェンタは、機能性蚊帳や室内散布スプレーなど、革新的なマラリア対策技術の開発を牽引してきました。それらの技術により、2000 年以降のマラリア感染数は 5 分の 1 程度まで抑えられてきています。

共同声明に賛同した 5 社は、ビル&メリンダ・ゲイツ財団^{*1}（所在地：米国シアトル、CEO：Sue Desmond-Hellmann。以下、ゲイツ財団）と Innovative Vector Control Consortium^{*2}（所在地：英国リバプール、CEO：Nick Hamon。以下、IVCC）の支援を得た取り組みとして、2040 年までにマラリア被害ゼロを目指す「ZERO by 40」を掲げました。既存薬剤に対して抵抗性を示すマラリア媒介蚊の増加が問題になる中、5 社の持つ専門知識や化学技術を駆使し、薬剤抵抗性蚊にも効果的なソリューションを開発、供給することで、マラリア撲滅の取り組みを推進します。ゲイツ財団及び IVCC と 5 社の取り組みは、これまででもマラリア対策技術開発、実用化において様々な成果を上げてきましたが、今後は今まで以上に連携を強化していきます。

三井化学グループは、三井化学アグロを通じ、マラリア対策に有効な薬剤を、アフリカを含む世界中の機関に対して供給してまいりました。今後も、長年培ってきた有機合成技術を駆使し、既存薬剤に抵抗性を持つ蚊にも有効な高性能薬剤を開発していきます。それらの技術を用い、SDGs（国連で採択された持続可能な開発目標）に掲げられているマラリア撲滅という社会課題の解決に貢献していきます。

- *1 全ての人々が健康で幸せな生活を送れる社会の実現を目指し、マイクロソフト会長のビルゲイツ氏及びメリンダゲイツ夫人により設立された慈善基金団体。開発途上国における感染症対策活動などを支援
- *2 画期的な製品開発を通じて蚊が媒介する感染症を減らすことなどを目的とし、2005年にゲイツ財団の支援を受けて設立された非営利団体

以上

<本件に関する問い合わせ>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部（TEL：03-6253-2100）